

創立145周年

学校だより



は
南 風 の 子

中種子町立

南界小学校

平成30年5月18日(金)

時代の流れで消えていくことば

校長 吉留 巧

南界小学校の正面玄関の履物を入れる箱。何と呼びますか。私と同じ50代なら「下駄箱」でしょうか。若い先生は「靴箱」というのでしょうか。中には、シューズボックスという人もいるのでしょうか。

教師になることを以前は「教鞭(きょうべん)を執る」と言いました。「教鞭」とは教師が指導用に使うムチや竹の棒を指し、童謡「雀の学校」では「ムチを振り振りチイパッパ」と歌われています。でも、スパルタ式の指導や体罰を連想させるこの言葉は消え、「御指導御鞭撻(ごべんたつ)をお願いいたします」という表現も目にしなくなりました。

今の1・2年生が生まれたころにテレビは地デジに完全に切り替わりました。かつて、テレビのチャンネルはダイヤルをガチャガチャ「回す」方式だったと聞いても、20代以下はピンとこないでしょう。

電話も、ダイヤルを「回す」黒電話は消え、プッシュボタンを「押す」、画面を「タッチする」に変わりました。私は息子・娘の画面をタッチするスピードについていけません。

ビデオの操作ボタンが「巻き戻し」という文字から「早戻し」という表示に変わりました。カセットテープからDVD・ブルーレイディスクに仕組みが変わったからでしょう。

社会科で「商店街調べ」という単元がありました。以前は、見学に行き、魚屋さん・八百屋さん本屋さんや時計店・電気店・食堂と地図に書き込みながらお店の人にいろいろ教えてもらいながら学習しました。今は、スーパーマーケットやコンビニ、家電量販店に押され、街の様子が変わり、商店街での学習が難しくなりました。

生活スタイルが変わり、どんどん新しい言葉や行為が登場しています。逆に消えていく言葉や行為があります。今の子どもは学校を終え社会人になると、文字は「書く」から「打つ」「入力」になるでしょう。

手を動かしたり手間をかけて物を作ったり、頭脳を働かせたりする行為とその言葉と一緒に消えているようです。時代の流れを感じます。

去年から南界小では、「子どもたちに「語彙力」を身に付けさせよう」と取り組んでいます。簡単に映像や画面から情報が入ってくる現在、「語彙力」の大切さを感じています。「新聞を読む」「読書」,「音読」「書く」, これらを通じてしっかりと身に付けてほしいと考えています。(加藤昌男著「ことば新事情」より一部引用)



【お願い】

6月3日(日)午前8時よりに南界小学校PTAで、小学校の愛校作業を行います。今年度PTA戸数も16戸になりました。校区の皆様の愛校作業へのご協力があれば助かります。ご協力できる方は学校(教頭)27-9009までご連絡ください。